δόξα
ドクサ

知っておきたいキリスト教のことば （23）

栄光　えいこう

聖公会の礼拝の中には、神さまの栄光を賛美する文章があります。例えば大栄光の歌と呼ばれるものがそれです。「いと高きところには神に栄光～」から始まるこの歌は、聖餐式の最初の方で唱えられます。

また「頌栄（ドクソロジー）」を唱える場面も多くみられます。朝・夕の礼拝の詩編のあとや賛歌のあと、また主の祈りの最後に「栄光は、父と子と聖霊に、初めのように今も、代々に限りなく　アーメン」と唱えるのです。（ちなみにローマカトリック教会では主の祈りのあとに頌栄は唱えません）

それでは「栄光」とは何なのでしょうか。広辞苑を調べてみますと、「輝かしい誉れ、光栄、名誉」、「幸いを約束する光」という意味がでてきます。そして聖書の中では、特に神さまあるいはキリストの栄光を強調します。

マタイ、マルコ、ルカ福音書において、キリストは栄光のうちに再臨することが待ち望まれ、またヨハネ福音書では、キリストはその生涯のすべてにおいて、十字架と復活を含めて栄光に包まれていると考えます。

そして栄光は、クリスチャンにとって救いの到達点であるといえるでしょう。神さまの栄光に照らされながら、わたしたち一人ひとりもその救いの中に入れられる。パウロの手紙の中には次のような言葉があります。

キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。（フィリピの信徒への手紙 3 章 21 節）

この言葉を信じ、神さまに栄光を帰していきましょう。

次回は「英国国教会」です。お楽しみに。

「キリストの変容」
ラファエロ・サンティ(1483～1520 年)

ペトロと仲間は、ひどく眠かったが、じっとこらえていると、栄光に輝くイエスと、そばに立っている二人の人が見えた。

（ルカによる福音書　9 章 32 節）